

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌

NO.52

2003・秋号

まなこ

企画・発行

武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当



特集「そだてる」

● それは夢をそだてること ●

取材

- 「地元の女性経営者と歩んで20年」 間野百合子さん
- 「発見した小惑星に境保育園と命名」 井上^{まさる}傑さん
- 「ここは緑の発信基地」 ^{はましま}濱島安司さん

まなこ
昔がたり

座談会「聞かせて、昔の子育ての知恵」 ● テンミリオンハウス「川路さんち」にて

レポーター
通信

- 親が生き生きしてこそ まなこレポーター 塩田直子さん
- いのちの種蒔き～素人菜園のススメ まなこレポーター 市川順子さん

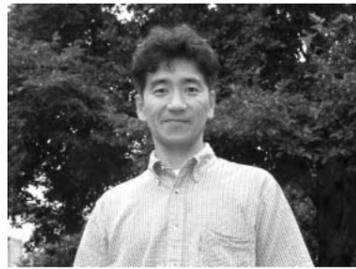
情報

知っていますか？ 「女性と仕事の未来館」

発見した小惑星に「境保育園」と命名

井上 傑^{まさる}さん (45歳) 桜堤

「今までやってきたことを子どもに教えて、今後は家族3人でいろいろやっていきたいですね」



「今年6月中旬、火星と木星の間にある小惑星に「境保育園」という名がついた。名づけ親は、桜堤在住の井上傑さん。長男の岳秋くん(6歳)が3月まで6年間通った市内の保育園に感謝の気持ちを込め、同じ名前をつけた。20歳のとき、アルバイトで貯めた資金で二五〇万円の望遠鏡を購入。以後、八ヶ岳を拠点に天体観測を続けてきた井上さんが小惑星に命名するのは今回で五回目だ。「本当は、3月の卒園式に間に合わせたかったんです」登録業務を行うのは、アメリカのスミノニアン天文台小惑星センター。余裕を持って申請していただけない、事務作業の遅れは悔やまれる。それほど保育園に思い入れのある井上さんだが、当初は子育てに自信がなかった。「でも忙しい妻と交替で保育園の送り迎えをするうちに私の方がはまってしまったんです。職員の方にも温かく迎えられる、疲れている自分が癒されていくようで……」二十代は「全部、星だった」という井上さん。同じくアウトドア派のパートナーと結婚してからは、パラグライダーやガーデニング、テディベア作りなど、夫婦でさまざまなことに広く深く挑戦している。「女性がやることは、男にとってもおもしろい。先入観を持たないでやると、おもしろいのかなと思うようになりました」

そんな井上さんに「夢をそだてるコツ」を聞いてみた。「がんばろうとすると疲れてしまうので、基本は楽しんでやることです」好きなことに一生懸命打ち込む。簡単そうで難しいことをさらりとやっつけてしまう井上さんが、ちよつと輝いて見えた。

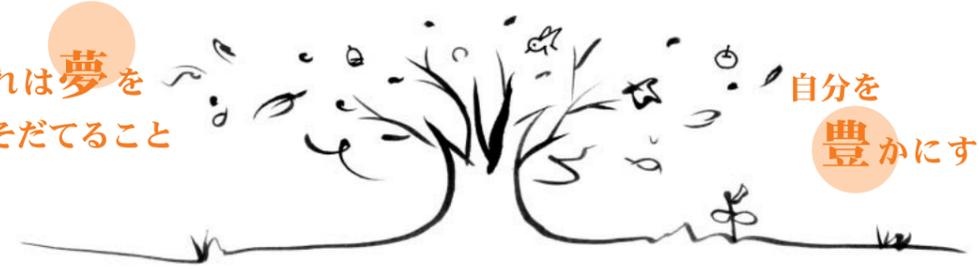
『まなこ』協力スタッフ 秋沢和宏(文)

「昨年レポーターを経て今回、取材する機会をいただきました。取材を通じて、保育園のイメージが「子どもを預かってもらうところ」から「癒されるところ」に一転。保育園のお世話になる時が楽しみです。」

そだてる そだてれば そだてたい・・・

それは夢を
そだてること

自分を
豊かにすること



地元の女性経営者たちと歩んで20年

間野百合子^{ひらこ}さん (78歳) 吉祥寺南町



高齢者施設にケーキを焼いて届けたり、地域に根づく活動を学園でもしてきました。

昭和50年代「市内の商工業経営に携わる女性に、懇親と情報交換の機会を育てよう」と武蔵野商工会議所内に設立されたのが「女性会*」。現在の会員はIT、学校、金融などのサービス業経営者を中心に約70名を数え、今秋、設立20周年を迎える。
*発足当時の名称は婦人会。

「市内でも特に吉祥寺は、駅、公園、店舗の配置が良く、商業地として昔から活気がありました。けれど商売繁盛の表の顔は男性だけ。女性は『副』社長、専務などの肩書きで、事業を下支えする存在でした」と、女性会の間野百合子会長は、発足時を振り返る。地元で料理学園を運営する間野さんが2代目会長となったのは発足後間もなくからだ。夫の了解を得られない中、時間をやりくりして参加する会員もいた。なのに業種や規模の違いで、接点が見つからないことも。ならば同じ目標にむけて結束しよう、とテント出店した「武蔵野さくらまつり」は格好の機会になった。おもちゃや本、小物を中心に寄付品などを販売したり無償提供するなどで、お客は喜び、会員も普段と違う体験ができる。今では欠かせない定例行事だ。

「私が就職した頃、女性の専門職は栄養士や電話交換手など、数少ないものでした。今はさまざまな分野に進出し、リーダーにもなれます。女性が自分や仲間を育てる努力を常に忘れず、この会を飛躍のチャンスにしてくれれば、嬉しいですね」秋の女性会全国大会には、各地から毎年約三千人以上が開催地に詰めかけ、講演会や交流会に参加する。ご当地の知事や市長も集い、物産展は大盛況。女性は衣類、雑貨、食料品など、生活に根ざした品を目に

するとアンテナが縦横無尽に働く。新商品や経営方針へのヒントを模索する姿には、いつも刺激されるそうだ。商工会議所でもパソコン、法律、経営などの講座を催すたび、申し込みが多く「女性の自己啓発への熱意を感じる」という。21世紀に巣立つ女性経営者が新しい武蔵野像を街に描く日も、近いかもしれない。 藤井美里(文)

忙しい中でも、不器用でもトライ！簡単にできる野菜レシピを間野先生にご紹介いただきました。

かぼちゃの茶巾 (5個分)

材料/かぼちゃ250g、だし汁1カップ、しょうゆ小さじ1、砂糖小さじ1、みりん小さじ1、酒小さじ2、甘納豆少々 (その他 レーズン、甘栗などでも)

- ① かぼちゃは皮をむいて一口大に切り、だし汁で煮る。
- ② ①が煮えたら調味料を加えて煮詰め、汁気がなくなったらつぶす。
- ③ ②を5等分してラップにとり、中央に甘納豆をいれ、茶巾に絞る。

ヒント ひき肉を塩コショウで炒め、甘納豆のかわりに入れるとお惣菜に。



「ここは緑の発信基地」

「みどりの食いしん坊」代表 濱島安司^{やすし}さん (71歳) 八幡町

第一・第三火曜日午前10時から、皆で作業しています。興味ある方はぜひいらしてください。



春はオーブンガーデン。育てた苗の配布と、ハーブティや手作りクッキーでもてなす。「秋の収穫祭では、手摘みのブルーベリーやルバーブで作ったジャム、ハーブバターのおいしさを味わっていただきます」地域との関わりを大切にしたい食いしん坊たち。一緒に緑を味わう楽しみの輪も広がっていく。

加藤和子(文)



「緑を創り、育て、楽しむ空間」がある。南北に長い二百坪足らずの庭園で、ハーブや果樹、野菜を中心に、四季の草花や海外取り寄せの種から育てた珍しい植物に出会える。市からここ「みどりの創作園」を任せられ運営・管理しているのは、ボランティアグループ「みどりの食いしん坊」の皆さん。武蔵野・緑・みんなのMをとり「M's Garden」と名付け、魅力的な創作園づくりに取り組み3年になる。北側の花壇は車椅子でも通れるよう工夫した。限られた予算で一から企画していくのは大変で、試行錯誤の連続。加えて知識や経験のある者たちが、遠慮なく意見を出し合う。「それを尊重し合う中で連帯感も育ちました」現在メンバー21人のうち男性は5人。女性は草花の手入れや細かい作業が得意で、男性は力仕事や樹木中心に世話をするといい面もあるが、作業は自発的に分担し合っている。ハーブや野菜を使った料理の情報交換や試食も楽しみだ。7月16日に千川小学校2年生51人が訪れ、園内の植物の説明に興味深く聞いてまわり、ハーブティを味わった。子どもたちから感謝の手紙や、「これを機に植物に対する態度が優しくなった」という親の声も寄せられた。そんなふれあいを今後も大事にしていきたいという。 春はオーブンガーデン。育てた苗の配布と、ハーブティや手作りクッキーでもてなす。「秋の収穫祭では、手摘みのブルーベリーやルバーブで作ったジャム、ハーブバターのおいしさを味わっていただきます」地域との関わりを大切にしたい食いしん坊たち。一緒に緑を味わう楽しみの輪も広がっていく。



「聞かせて、昔の子育ての知恵」

平成15年8月1日午前10時～12時
テンミリオンハウス「川路さんち」にて

まなこ
昔がたり



●「川路さんち」にお集まりいただいた皆さん
青木さん、飯田さん、伊藤さん、井上さん、桑原さん、柴田さん、
高尾さん、森本さん
●まなこレポーター
市川さん、高野さん、塩田さん、福井さん、松田さん、山田さん
(50音順)

昔は常識、今は「アウトドア」
伊藤 私達、電気がなくても新聞紙があれば、石油缶に薪口と空気穴あけて、ご飯炊けるわよね。
市川 アウトドアなんて言いますがいいゆるる野外炊事、お子さんにも伝えてますか？
伊藤 昭和22年頃はレジャーでご飯を作るというのはまだ無かったですね。

高尾 電気はあっても上下水道は無く、井戸水や石油コンロを使っていた。
森本 ためこみのトイレや、電気でタンクにくみ上げる水道を使っていた時期もあったわ。
飯田 ホウレン草茹でた残り湯で手洗って、「あったかいねえ」って暮らし方の大切さも、忘れちゃいけないと思う。

親は子どものマネージャー化？
松田 2歳前後は、そろそろお友達が必要かなと母親が思う時期。子どもの代わりに母親同士で電話で約束して一緒に出かけたたり、お家にお邪魔したり、母子セットで行動する。遊びの時間が長引くと家事に余裕がなくなると、子どもにお手伝いさせる時間もなくなってしまう。
青木 「遊べますか」って承諾ももう？うーん。昔は年代は違っても子ども同士で固まり、小さい子は近所のお兄ちゃんお姉ちゃんが親玉みたいにひき連れ、時計もないのにお昼になると不思議にちゃんと帰ってきた。まだ水道道路（現井の頭通り）あたりが広い草っぱらで、大勢で遊んでいた頃だけだ…。

教えなくても親のまね
「子は親を演じる名優」
飯田 洗濯物の干し方たみ方、娘も孫も私と同じ。親のやっているのを見て育つんだって改めて感じる。
高野 親の言った通りには子は育たない。やった通りに育つ…。
飯田 そうよ、ダンナは丸くも四角にも変えられなくても、子どもは思った通りに育ってくれるものじゃない。
高野 でも、そこがいいのかも。

子育て完了、振り返れば…
森本 舅、姑に尽くしてきたと思う。神棚に手を合わせるとか、何かを敬う姿勢が子どもにも伝わったようだ。
青木 なぜか、あるとき末娘を「慈

内心ハラハラ、手伝わせてこそ子は成長
市川 3歳の息子はお手伝いしたがつて困りますが、昔の子はよく手伝ったんですか？
飯田 薪割りも当たり前だったわ。手伝わせる時間はかかるし、実際ハラハラすることもあった。でも我慢してやらせると、なんとかできるようになる。

福井 今中学生の娘が小さかった頃、時間がかかるのを我慢して全部やらせた時期があった。「ハンバーグ作るから挽肉丸めて」って言うのと喜んでやっていたのに、今や「手伝って」「やだよー」
飯田 その子には身になってるわよ、普段やらなくても幼い頃に下地ができてから。
福井 報われるなあ。でも、私が病気になるたら誰か何をしてくれるの？って不安も。
飯田 とときき飯病、どう？がんばってやってくれるわよ、きつと。
福井 その手があつたか！
松田 子ども自身が見て知って、体験する機会はずっと欲しい。だからお魚も切り身で生きているんじゃないのと、丸ごと一匹からおろすのを見せたり。それも親の役目かなと思う。
飯田 お年寄り世代も子どもたちにそういう技術を教える機会が欲しいんじゃないかな。例えばコミセンの庭で火おこしてご飯炊いて…喜んでやっちゃうそよ。

母のリフレクシヨウ作戦
飯田 学校では児童数がとても多く、母親が給食の配膳を手伝いに行った時期もあった。かっぽう着や教室のカーテンも自分たちでミシンで縫ったわ。
桑原 下の子おぶって、上の子のために手伝いに行った。赤ん坊をお姑さんが見てくれること

しんで「育てたいと感じるようになり、とりわけ心を込めて接してきた。相性とは違う、何かに動かされるような。真心が伝わったのか、成長してからも特に思いやりがある人間に。夜なべして作った服を着ている当時の写真を見ると、今でも嬉しくなる。
柴田 男2人女1人を夢中で育てた。自分の母が早く亡くなって思い出が薄い分、姑のことを本当の母のように慕った。そんな情景が子どもの中にも生きている。
伊藤 最近、お嫁さんとお喋りで気付いた。長男を「お兄ちゃん」とたてて育てていたが、実は内心重荷だったらしい。そのせいか長男の家庭では上の子下の子、という区別をしていない。反面教師にもなつてたのか、と知った。
井上 両親を尊敬する気持ちでいっぱい。7人きょうだいの大家族の思い出を、たくさんつくってくれたから…。家族全員が和気あいいで毎日楽しかった。兄だから姉だからと区別なく育てられると、大人になつてもきょうだい仲が良い。今私は幸せ、と思えるのは両親が基本を築いてくれた。
高野 私もそう言われてみたい！
福井 でも思い出って、どうやって作ればいいんですか？私も子どもにたくさん思い出を、とあちこち連れて行って、でも後で「そんなことあった？」なんて言われてがっかり、という経験ばかりで。
伊藤 思い出って時間も経つてから振り返れるものなのよ、きつと。子どもたちは、楽しい体験や記憶が大人になってから宝物になるのよ。
市川 体験したからって、すぐに結果が表れるわけじゃない。時間がかかることに気付かずに焦って、ストレスになつた…。
藤井美里(文)

まなこレポーター通信

親が生き生きしてこそ

レポーター 塩田直子(文)



4歳になる娘の母として責任を持って彼女の成長に携わりたいという思いと、一人の社会人としての役割を途切れることなく果たしていきたいという思い。私にとってはどちらも大切で、片方を切り捨てることはどうしても出来ませんでした。

同じように悩む親たちがあればサポートしたいと考え、一年前武蔵野市に転入してまもなく、「保育サーピスひまわりママ」の門をたたきました。娘が幼稚園に行っている毎日数時間が、私の事務局での勤務時間。他のスタッフの皆さんと時間が合わず迷惑をかけるばなしでしたが、私にとってはやと踏み出した社会復帰の大切な第一歩でした。何らかの形で社会と関わり、役立つ実感を持つことが、子育て中の自分にとっていかに大切かを痛感しました。

親が生き生きしてこそ子どもが生き生きと育つーこれが私の信念です。子育て真っ最中の母親たちがもっと社会の一員として自分も充実でき、また父親たちも仕事以外の自分を家庭や地域にもっと持てる、そんな社会の実現こそが、子どもたちの健やかな成長へのいちばんの近道なのではないでしょうか。

私はこれからも、親であり、社会人である自分を大切にしながら、親と子どもが共にのびのびと生きられる社会を目指して仕事を続けていきたいと思えます。



も無かつたけど、学校の用事といえば無条件に出かけられた。自分も息抜きになるし、母親同士のつきあいが増えたから、相談相手に事欠かなくなつた。
福井 学校の備品も手作りってすごい技術。不器用な人なんていなかったんですか？
飯田 不器用でも、やらなきゃ完成品を売ってないんだもの。ミシンが無ければ手縫い、生地が無ければ端布をはぎ合わせ。布を体に巻き付けてすまずわけにいかないものね。
高野 親はやるのがたくさんで、子どもばかり目を向けていられたらなかつた。逆に子どもは自立したのかな。
断乳、おむつ、今むかし
伊藤 私は断乳で苦労したわ。下の子が産まれるとき、胸に唐辛子を塗ったり、赤マジックで怖い顔かいたり。
市川 子どもが何歳頃まで母乳を？私は出産を控えてますが、母乳を飲ませると体力を吸い取られるといううか、体がポロポロで持たないって感じる。無理な断乳はしたくないんだけど…。(皆) 母乳が出ないほうが大変。昔はそんなこと言われていなかった。今は体型維持を気にする人もいるけどね。
飯田 母乳が出ない人のために粉ミルクが配給された時期もあった。家賃が三千円くらいの頃に一缶四円つて近所の人に聞いて、高価なのにびっくり。経済的にも大変だったでしょうね。布おむつは古浴衣をほどこいて手作り、たらいで洗ったわ。



知っていますか「女性と仕事の未来館」???

働く女性・働きたい女性が確実に力を発揮できるよう支援するために、厚生労働省によって建設され3年前に開館した。未来館では開館以来、起業セミナーに力を入れている。

お話をしてくれた
山本 桂さん



●起業セミナーがあるようですが
起業を希望する人は男性が女性の三倍以上ですが、近年、新規開業した人は、女性の方が多くなっています。受講者は定員を上回り、中でも三十、四十代が多くなっています。

●セミナーの内容は?

まず「初級起業セミナー」では、漠然と抱いていた起業への想いを正しくスタートできるようにします。次に「中・上級セミナー」では、より確実に実現可能、第三者にもわかりやすく、他者と差がつく事業計画の作成を目指します。そして「企業家支援セミナー」です。実際に事業を始めてみると、さまざまな困難が待ち受けています。各々に対応できるように今年度は「マーケティング」「広告・宣伝」「財務の見直し」のコースが開設されています。

●セミナー後は?

セミナー後に起業した業種をみると、サービス業、小売業が多くなっています。起業にあたり困った事は、経営全般に必要なノウハウや資金の不足をあげる人が多いようです。金融業者に「女性だから」「店が小さいから」と断られても「この仕事が好き」という気持ちを大事にし、信念を持ち続け、頑張っている女性もいます。

●未来館では?

女性のキャリアアップや起業のためのセミナーを開いたり、働くことをめぐる女性の悩みや質問に答えたりします。館内には、多種多様な図書・資料を提供するライブラリーもあり、さまざまな分野から支援をしています。

取材 尾花雅子(文)・加藤和子

Q1 そだてる(そだてた・そだてたい)のは、なんですか?

女性から

- ・子ども
- ・夢
- ・自分自身
- ・植物
- ・ペット
- ・夫
- ・家族の絆
- ・支えあう社会
- ・女性が元気に暮らせる社会



男性から

- ・地域の自然
- ・家庭
- ・子ども
- ・男と女のスムーズな関係
- ・部活の後輩
- ・社員
- ・コミセン
- ・塾の生徒の学力
- ・趣味の世界
- ・笑いを理解できる人々や社会



Q2 なぜ、そだてるのですか?そだてた実感はどんなときに湧きますか?

- ・本能
- ・親として無条件かつ最も大切な使命だから
- ・社会に広く関心を持ち考える力を育てて行きたいから

- ・成長を感じたとき
- ・想いに応じてくれたとき
- ・過去の自分を振り返ったとき
- ・苦しさを乗り越えられたとき
- ・相手に必要とされていると感じたとき
- ・子どもに励まされたとき

- ・地域の活力が増すから
- ・人生を充実させたいから
- ・女性の更なる活躍と男性の一層の奮起を促したいから
- ・部活を引っ張っていった欲しかったから
- ・笑いこそ人間の特権であり活力源だから
- ・組織としての成果を上げるため

- ・相手の笑顔を見たとき
- ・ほんのわずかなことでも成果を感じたとき
- ・若手が対等の論議をするようになったとき

Q3 マニュアル(お手本)を意識しますか?そだてる上で必要なもの、不足しているものはなんですか?

- ・意識しない
- ・参考程度
- ・自分のやり方
- ・意識する

- ・夫や家族の協力
- ・心のゆとり
- ・お金
- ・共感してくれる仲間
- ・社会全体の配慮、理解

- ・自分のやり方
- ・先輩から受け継いだ形で伝える
- ・参考程度
- ・さまざまな人に支援を求める

- ・男女がお互いを理解する努力
- ・気持ちのゆとり
- ・コミュニケーション
- ・情報
- ・人材となりうる若手
- ・時間

Q4 そだてることに女性・男性の視点は必要だと思いますか?

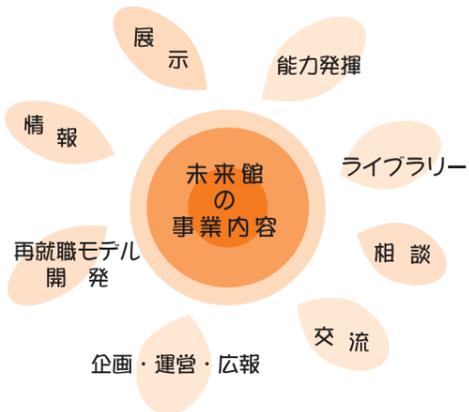
- ・そうは思わない。今まで女性には大きな組織をそだてる機会が少なかったのでは(39歳)
- ・それぞれのおかれてきた環境、生まれ持った性差によってあると思う(36歳)
- ・性差ではなく人それぞれの視点の違いが必要(27歳)
- ・どちらかに偏ることなく両者の視点で見えあげたらよい(30歳)

- ・必要。男女の特質をミックスし活用できた時比較的効果が上げられたようだ(55歳)
- ・必要ではないが逃れられないもの(19歳)
- ・男女の領域は自ずと出てくる(60歳代)
- ・男性は大きな組織しかそだてられず、女性は身近な地域しかそだてられない現代の傾向こそ嘆かわしい。性差は不要のはずだ(42歳)

取材同行記



左から館内の案内をしてくれた松倉利恵子さんとレポーターの山田さん、松田さん



女性と仕事の未来館

〒108-0014 東京都港区芝5-35-3
TEL 03 (5444) 4151 (代表)
FAX 03 (5444) 4152
URL <http://www.miraikan.go.jp>

- 交通機関 JR山手線 田町駅より徒歩3分 都営浅草線・三田線 三田駅A1 出口より徒歩1分
- 開館時間 火曜～土曜 9:30～21:00 日曜・祝日 9:30～17:30
- 休館日 月曜、年末・年始

*セミナーの受講は女性に限っています。
*申し込みはTEL・FAX・ホームページで。

山田 「あゆみ展」は働く女性の歴史を、模型や写真で説明していてとても分かりやすかったわ。明治時代の女性は家の付属品だったなんて。

松田 製糸工場の工女の話は、本や映画で知ってはいたけど、案外近い過去のことなんですね。

- 「ライブラリー」の資料の多さには驚いたわ。
- 利用者も多く、登録者の割合は男性だとか。
- 全国の自治体の出版物も揃っていて、意欲のある人には便利よ。
- シミュレーションゲームで「再就職のための自己チェック」を受けたら、意外な発見がありました。
- ここは道を見つけた人には見つける術が揃っているわね。
- 土曜日は一週間前に予約をすれば、託児もしてくれるとのこと。あゆみの展示で啓発されシミュレーションをして仕事に対する気持ちが前向きになりました。

(レポーター 松田理恵・山田マリ子)

まなこレポーター通信

“いのち”の種蒔き～素人菜園のススメ～

レポーター 市川順子(文)



プランターから畑を始めて市民農園歴は7年目。今年さらさら富士山麓に小さいながらも自分たちの畑を持ち、念願の週末田舎暮らしを始めました。

夫と一緒に土をいじる。子どもと一緒に種を蒔く。畑は我が家の最高のコミュニケーションの場です。仕事や家庭のストレスで夫婦間がギクシャクしている時、疲労感たっぷりの時でさえも、余計な会話をしなくてもいい。土をいじり、種を蒔き、日々成長する野菜たちの「いのち」に触れるだけで、慰められるというか、イライラが解消されるというか、心とからだのパワーが不思議と戻ってくるのです。

野菜を上手に育てることは難しいけれど、小さいのちに向かい育てることで、手の温もりも加わった安全な野菜を口にできるのは、本当にありがたいことです。

この秋に第二子が産まれる予定です。夏は毎朝、大きいお腹で散歩がてら市民農園に出向き、キュウリやナス、トマトなどを収穫しました。日々成長する野菜と子どもの成長をだぶらせてとても満ち足りた気分です。毎日がスタートしました。朝食や夕食には、毎日食卓に形を変えた採りたて野菜が登場し、三世代の親子で賑やかに食事を楽しみます。

いのちの種を蒔き、そのパワーをいただく。素人菜園を通じて、育てることの喜びや幸せを子どもにも伝えていきたいと思えます。

レポーター会議風景

7月11日(金) 10:00~12:00 市役所第606会議室にて

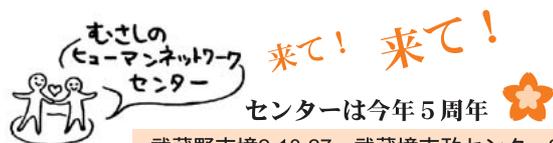


- 地元の話をもっとピックアップしてほしい。昔と今の感覚を上手に身に付けられたらと思う。
- 取材に同行して、今まで知らなかった分野の話が聞けて、貴重な体験ができた。

- なるべく外に出て、いろんなものや人と触れ合う生活をしたい。それが自分のためになり、そんな自分を見て子どもが成長していったらいいと思う。
- 娘からSOSが出たときだけ孫の世話をする。誰かのためではなく、自分の好きなことをしていきたい。
- 子育ては楽しいだけと思っている夫には、私が毎日楽しんでいるように見える。
- そだてるといふことの重さが少子化へつながっている。施設を整えてもそれは解決しない。

- 今、仕事を探すよりも前に、子どもを置いて仕事に専念できるかということが問題。
- 夫に働きたいと言うと、「僕が会社を辞めるから」と言われ、年齢制限を気にすると「いくつになっても能力があれば大丈夫」と言われてしまう。
- 娘の夫は主夫も辞さないという。70代の夫にはそれが理解できない。
- 夫は害である私には、子どもや親との関係、家族の平和という環境をそだてて欲しいという。

- 花や野菜作りで土を触っていると無になれるが、都会では土も枯れた花もゴミになってしまう。
- そだてたいのはゆとりのある笑い。世の中決まり事が多いので笑えないのでは。



武蔵野市境2-10-27 武蔵野市政センター2階
TEL・FAX 0422(37)3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp
URL http://www.clipcraft.or.jp/m_hnc

「子育て」と「自分育て」をキーワードにいろいろな企画が盛りだくさん。ホームページをチェックして、ぜひ、ご参加を。

- ・ 10/10 5周年記念講演会(講師: 柏木恵子氏)
- ・ 10/17 パソコン・リーダー養成講座(全7回)
- ・ 11/1 5周年記念式典と「子どもが「育つ」まち」論文・ビデオ・マンガ(募集期間8/1~9/30)授賞式
- ・ 11月 人間関係セミナー「産休の問題と子育て」(予定)
- ・ 3/6 映画会「デブラ・ウィンガーを探して」

女たちの「自分育て」
輝きを増す生き方・働き方



広岡 守穂
(講談社)

女たちの「自分育て」は仕事へ向かう。それも、起業、NPOといった新たな形での。子育てを通して女性へエールを送ってきた著者が、本書では仕事によって「自分育て」を実現していく女性たちの働き方・生き方を紹介する。

子別れレッスン
「おっぴい男」と「わがまま妻」



齋藤 学/久田 恵
(学陽書房)

子育てとは、一人でいられるようにすること。子育てに悩む母代表の久田恵が、家族問題の第一人者、齋藤学から「子別れ」を学ぶ。読み進むうち「子産み・子育て」は、子も親も、妻も夫もさびしいけれど個として生きていくための「生き方レッスン」なのだと思わされる。

*** 市民活動センター 男女共同参画担当より ***

■ 男女共同参画セミナーのお知らせ

「起業しよう～自分で仕事をつくる～」(全2回講座)

10月17日(金)「いま、なぜ起業? 起業する女性たち」

10月22日(水)「起業への道すじ 開業準備の基礎知識」

時間はいずれも午後6時~8時

むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室にて

■ むさしのトーク&シネマのお知らせ

11月15日(土) 午後1時~ 武蔵野公会堂ホールにて

トーク: 「夢をつかむ」講師: 桂右団治(落語家)。桂文治に入門。平成12年女性初の真打に昇進し、初代桂右団治を襲名。落語と、男職場の落語界に入ってみての裏話などを語っていただきます。

シネマ: 「リトル・ダンサー」イギリス映画 2000年
“僕がバレエ・ダンサーを夢みてはいけないの?”
11歳のピリーはバレエ教師に才能を見出され踊りを習い始めるが、父親に猛反対される。それでもピリーは練習を続け、父のかたくなな心を変えていく。“バレエをすると、鳥のように空を飛んで、体中に電気が走るんだ!!”

企画政策室市民活動センター男女共同参画担当

TEL 0422(60)1869

URL <http://www.city.musashino.tokyo.jp/>

STAFF

- レポーター 市川順子・勝野智子
高藤祐子・菊谷美恵子
高野良美・塩田直子
曾我部一美・福井貴美子
古橋 哲・松田理恵
山田マリ子・和田あやこ
- 取材・編集 森 治美(編集長)
尾花雅子・加藤和子
藤井美里・星 詩子
- ☆他にもたくさんの方のアンケート協力員、編集協力員に支えていただいています。
- デザイン 小井戸厚子
イラスト 本田 倫
印刷 横河グラフィックアーツ株式会社

★肩ひじ張らず、自然体で誌面に登場してくれる男性が増えました。『まなこ』は、女だけが書き、女だけが読む情報誌ではありません。『まなこ』流男女共同サンカク、次号もどうぞ、お楽しみに。(森 治美)

★なにをかそだてるなんて、根性なしの私はどうも苦手。とはいえず子育て真っ最中これだけは投げ出すわけにいかない。でもそだているつもりで、実はそだてられているのは私のほうだったりして...。(星 詩子)

★毎回そうなのだが、取材で出会った方々から教わることは数多い。『まなこ』は私にとって体験学習の場でもある。いくつになっても見た目はともかく、内面は育ち盛りでありたいもの。(加藤和子)

★人気のスピードパンを作った。電子レンジ利用で醗酵時間を短縮し、1時間で焼けるのは嬉しいが、タイマーにくぎづけ、何だか気ぜわしい。じっくりパン種を育てる約3時間は、実は贅沢なのかな。(藤井美里)

編集後記

★母親として21歳になる。泣いたり、落ち込んだりしながら、精一杯子どもたちを育ててきた。いえいえ、苦労して育てたのは彼らだったかもしれない。少しは私も成長したかしら。(尾花雅子)